

Iwaino Daichi

いわいの大地

農家と農業委員会をつなぐ広報誌

就任のあいさつ



一関市農業委員会
会長 小澤 仁

平素は農業委員会の活動に対しまして、ご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて私こと、去る九月二十日に開催された、農業委員改選後の第一回総会において、会長に互選されました。委員としての選出区分は、農業委員会の公平・公正な判断に資するよう、農業分野以外の意見を反映させるため、所掌に属する事項に關し、利害関係を有しない者に定める「中立委員」となっております。

以上のことから、この度の「農地現状変更等に係る問題」の事態收拾には、市民の皆様より、大きな期待が寄せられております。本件については、農地現状変更届出指導要綱が適切に運用されてこなかったこと、また指導要綱の内容が届出者に十分に理解されていなかったことが大きな要因であり、市民の皆様にご心配をおかけしており一関市農業委員会として、市民の皆様にご深くお詫びを申し上げます。

就任のあいさつ



一関市農地利用最適化
推進委員会
委員長 小野寺照夫

九月十九日の任期満了により、新たに農地利用最適化推進委員会議の委員長になりました小野寺照夫です。

六年間、農地利用最適化推進委員として農業委員の方々とは遊休農地・耕作放棄地の発生防止

今後は、盛り土農地の是正に向けた調査指導をしっかりと行いながら、問題の検証を進めると共に、再発防止に向けた業務の改善に取り組み、より一層の信頼回復に努めてまいります。

さて、農業をとりまく、厳しい環境は、一関市でも例外ではなく、農業従事者の高齢化により、地域を支える農業経営が、危ぶまれる状況となっております。農地においては、耕作困難地域の増加、担い手の不足など、現在、市内各地域において、話し合いが進められている「地域計画」の早期策定が期待される所です。

一関市の基幹産業である、農業を安心して、地域の後継者へ託すため、更に、農地を守り活用する為、各関係機関と協力し、力強く進めて行く覚悟であります。

市町村合併後、農業委員会業務においては、大きな見直しが必要で、今に至っております。このような状況だからこそ、地域の現状に即した、新しい形での運営が期待されている所です。

今般、一関市農業委員会の新体制が発足致しましたことから、組織を再点検し、前例にとらわれず、各所管分野において、今までの踏襲ではない、新しい形での、信頼を得られるような、農業委員会運営を目指してまいります。市民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。あいさつとさせていただきます。

のため、農地パトロール等の活動を通して地域の農業について農業者と話し合いを進めてまいります。

特に高齢化に伴い耕作放棄をせざるを得ない農家が多く農地の集積・集約化に向けた対策が急務となつてきております。また、農業を守り育てるため、農地として残さなければならぬ「優良農地」と「山林等」に返つても仕方のない農地」に区分しながら、優良農地の確保と有効利用、担い手農家への集積集約化、新規就農者への支援等により地域に密着した活動を農業委員と協力して進めてまいりますので、地域の皆様のご指導・ご協力をお願い致します。



「人との繋がりを大切に」

千厩町奥玉の「おくたま農産」に就職し、今年で6年目となる渡邊京子さん。千葉県出身の京さんは、緑のふるさと協力隊として千厩に着任した縁で、協力隊としての活動終了後も千厩に残り、おくたま農産の各種作業のほか、様々な方面で活躍されています。

以前と比べて乗れる機械も増え、作業の楽しさが増した分、機械の知識も深め、上手に操れるようにしたいと、今後の目標を語ってくれました。

協力隊時代から、地域の方々と繋がりを大切にしてきた京子さん。廃棄野菜の有効活用や、耕作放棄地の問題解決に向けても、何かできることはないかと想いを巡らせてくれています。さらに、綿羊の飼育にも挑戦しています。今後の展開が楽しみです。

現在も一関市内各地で、地域おこし協力隊の方々が活動されています。彼ら(彼女ら)が運んでくる新しい風が、地域住民の想いと重なり、強い風、心地よい風となつて、一関市を駆け巡って欲しいです。

(旧農地利用最適化推進委員 遠藤 真二)



※京子さんの紹介は、こちらをチェック!



農業委員 (24人)



③ 菅原 良博
53歳、藤沢町西口
農地専門委員会



② 鈴木 弘也
45歳、東山町長坂
【会長職務代理者】
農政専門委員会



① 小澤 仁
53歳、花泉町花泉
【会長】



⑥ 加藤 敏子
63歳、大東町汲民
農地専門委員会



⑤ 及川 務
45歳、大東町中川
農政専門委員会



④ 佐藤 宗雄
77歳、厳美町
農地専門委員会



⑨ 渡邊 克洋
58歳、舞川
農政専門委員会



⑧ 佐藤 和威治
71歳、藤沢町増沢
農政専門委員会



⑦ 菅原 聡子
62歳、滝沢
農政専門委員会



⑫ 後藤 修
62歳、藤沢町黄海
農政専門委員会



⑪ 阿部 久美子
46歳、赤荻
農政専門委員会



⑩ 鈴木 清吉
72歳、大東町大原
農地専門委員会



⑮ 高橋 金夫
72歳、狐禅寺
農地専門委員会



⑬ 藤原 美喜男
65歳、室根町折壁
農地専門委員会



⑯ 齋藤 佳記
66歳、中里
農地専門委員会



⑮ 鈴木 耕多
68歳、室根町矢越
農政専門委員会



⑭ 佐藤 喜明
47歳、大東町鳥海
農政専門委員会



⑬ 及川 治雄
72歳、花泉町老松
農地専門委員会



⑳ 藤野 秀一
64歳、千厩町奥玉
農政専門委員会



㉓ 千葉 平
62歳、川崎町薄衣
農地専門委員会



㉒ 遠藤 真一
44歳、千厩町小梨
農地専門委員会



㉑ 佐藤 多賀幸
70歳、花泉町涌津
農政専門委員会



㉐ 佐藤 和幸
65歳、花泉町永井
農政専門委員会



㉑ 佐藤 想司
64歳、東山町田河津
農地専門委員会

新たに選任された 農業委員・ 農地利用最適化推進委員 の顔ぶれ

農業委員は農地、農政のいずれかの専門委員会に所属
農地利用最適化推進委員は、各担当地域で活動します

農業委員会は農地法などの法律に基づき、農地の売買、貸し借りや転用などに関する許認可を行ったり、農業者からの相談に応じたりする農地利用の最適化の推進を担う組織です。

任期満了に伴い、令和6年9月に委員改選が行われ、農業委員24人、農地利用最適化推進委員36人が新たに選任されました。任期は令和9年9月19日までの3年間です。

両者は互いに連携し、市内の農地利用の最適化を推進していきます。

農地等に関するご相談は、お近くの農業委員・農地利用最適化推進委員にお願いします。

(担当地区のお知らせは、市広報2024年11月号に掲載しています。)

農地利用最適化推進委員 (36人)



⑥ 小野寺 義廣
69歳、萩荘
一関地区担当



⑤ 佐藤 洋一
73歳、萩荘
一関地区担当
【副委員長】



④ 小岩 茂
68歳、萩荘
一関地区担当



③ 小野寺 敬司
71歳、滝沢
一関地区担当



② 菅原 博伊
72歳、中里
一関地区担当



① 大越 謙一
57歳、赤荻
一関地区担当



⑫ 佐々木 修喜
63歳、花泉町花泉
花泉地区担当



⑪ 佐藤 佐津夫
69歳、花泉町油島
花泉地区担当



⑩ 及川 善喜
63歳、花泉町涌津
花泉地区担当



⑨ 千葉 寿昭
61歳、花泉町永井
花泉地区担当



⑧ 岩淵 寿也
58歳、弥栄
一関地区担当



⑦ 石川 宗一
65歳、舞川
一関地区担当



⑬ 菊池 光明
71歳、大東町曾慶
大東地区担当



⑬ 小野寺 照夫
74歳、大東町猿沢
大東地区担当
【委員長】



⑬ 佐々木 英一
62歳、大東町大原
大東地区担当



⑮ 岩淵 勝郎
65歳、花泉町金沢
花泉地区担当



⑭ 磯田 義次
66歳、花泉町日形
花泉地区担当



⑬ 千葉 稔
59歳、花泉町老松
花泉地区担当



⑭ 菊池 正衡
72歳、千厩町磐清水
千厩地区担当



⑭ 小野寺 彰
74歳、千厩町奥玉
千厩地区担当



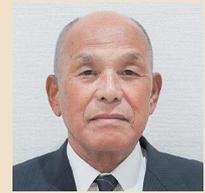
⑭ 畠山 克也
63歳、千厩町清田
千厩地区担当



⑮ 菅原 秀明
63歳、千厩町小梨
千厩地区担当



⑯ 三浦 洋子
67歳、大東町洪民
大東地区担当



⑮ 小崎 盛人
72歳、大東町洪民
大東地区担当



⑯ 菅原 隆儀
71歳、室根町津谷川
室根地区担当



⑯ 岩淵 正昭
75歳、室根町矢越
室根地区担当



⑯ 小松 豊吉
63歳、室根町折壁
室根地区担当



⑰ 小野 修司
69歳、東山町松川
東山地区担当



⑰ 佐藤 一義
66歳、東山町田河津
東山地区担当



⑰ 千葉 久壽郎
74歳、東山町長坂
東山地区担当



⑰ 畠山 勤
63歳、藤沢町藤沢
藤沢地区担当



⑰ 高橋 弘
67歳、藤沢町徳田
藤沢地区担当



⑰ 佐々木 栄一
69歳、藤沢町黄海
藤沢地区担当



⑰ 畠山 誠志
67歳、藤沢町大籠
藤沢地区担当



⑰ 佐藤 正憲
61歳、川崎町門崎
川崎地区担当



⑰ 小山 範輝
67歳、川崎町薄衣
川崎地区担当



〔関地域〕
高橋 龍祐さん(31)



「ゴールからの逆算でまずは反収20トン」

目標を達成するために何をすべきか。関市滝沢で施設園芸農業をしている高橋龍祐さんはゴールからの逆算を意識している。1年間の研修を含めると6年目のトマト栽培。作付面積12アールで今年のゴールは栽培技術の確立と反収の向上だ。昨年は猛暑などで大量廃棄を経験し、今年は裂果の対策として栽培品種の3分の1を「麗月」に変更した。



収量確保のためには日々の誘引やホルモン処理などの管理、生育状況を見ながらの灌水、追肥などを収穫と同時に進めなければならず、そのためには効率よく動き作業を回す段取りが重要と逆算を広げる。今年、天候は不順な部分もあったが、基本管理がしっかりとできて目標の反収20トン近くを達成できそうと手ごたえを感じている。

以前はエンジニアとして全国で仕事をしていたが、3人の子どもたちと関わる時間、家族と過ごす時間を取れるよう就農を決意した。トマトを選んだのは「若手生産者が多く、高収益が見込めるから」。最終的には「5年以内に反収30トン、面積22アールで売上げ2,000万円の達成」をゴールの形と考えている。一方で春先の収入源としてアスパラガスを試験的に栽培開始、地域に貢献できる狩猟免許も取得して活動し、目標は高く高い。

農業、地域、家族の年ごとのゴールを考え、そのため必要なことを計算し挑戦する熱き農業者の今後に期待したい。

(旧農業委員 松岡 千賀子)

【農業者年金で老後も安心!】

あなたの老後生活の備えは十分ですか？
家族で農業者年金に加入し、豊かな老後生活のために備えましょう。



1 農業者であれば広く加入でき、加入・脱退も自由!

- ① 年間60日以上農業に従事、
- ② 国民年金第1号被保険者、
- ③ 20〜64歳の方

2 「積立方式・確定拠出型」なので少子高齢時代でも安心!

3 終身年金で、死亡一時金もあります。

終身年金です。生涯一定の収入が確保されます。80歳前に亡くなられた場合は死亡一時金が遺族に支給されます。

4 税制面で優遇措置!

支払った保険料は全額社会保険料控除の対象です。

5 若い農業者には国庫補助も!

認定農業者等の条件を満たす方は、最大1万円の国庫補助が受けられます。

編集後記

昨年を超える異常気象が地域の農業にさらなる追い打ちをかけているが、そんな中でも、懸命の対応によって、出来秋をむかえている。

例年八月に発行しているこの「いわいの大地」であるが、様々なことが重なり任期を超えたこの時期の発行となった。

令和三年九月にこの編集委員会がスタートしてから、市内八地域がそれぞれの想いと強みを発揮して頑張っている農家の姿をできるだけ皆さん方に届けたい、そういう思いを共有した中で編集を続けてきた。

基幹産業と位置付けられてきた関の農業が、次なる世代により良い形で引き継がれるよう、農業者のみならず思いを共にする多くの方々と共に英知を結集し、情報が提供されることを期待し、次なる編集委員にバトンを繋ぎたい。

農業委員 佐藤 和威治

旧「いわいの大地」編集委員

編集委員長 佐藤 和威治(藤沢)

副委員長 畠山 潔(大東)

編集委員 松岡 千賀子(二関)

佐藤 多賀幸(花泉)

遠藤 真一(千厩)

佐藤 想司(東山)

藤原 美喜男(室根)

小野寺 修(川崎)

